

剣道部・剣友会年表

卒年度	剣友会周年	剣道部の活動	剣友会の活動	歴代主将	大会戦績	題目・成績	選手名	出来事(剣道)	全日本選手権優勝者	出来事(社会)	
S25 (1960)		【関連記事1】 全国組織結成の打ち合わせの場になったのが、日光東照宮である。東照宮は戦前から剣道に力を入れており、昭和四年の武徳殿竣工以来、毎年夏に奉納武道大会を開催してきた。占領期中断を経て昭和二十六年八月から日光大会として復活させた。そして二十七年八月十八日に全国に呼び掛け、剣道大会を開催することにしたが、この機会に集まった全国の剣道関係者による懇談会において、全国組織の結成の相談が行われ調整が図られた。 こうしてすでにこの年五月に結成されていた東京都剣道連盟と三月に発足した大阪剣道連盟が、京都府、兵庫県と提携して結成された。近畿剣道連盟の両者が打ち合わせの中心となって調整案を作成、全国の剣道に呼び掛けることになった。そして東京都剣道連木村篤太郎会長と近畿剣道連盟大谷一雄会長代理の連名で、十月十三、四の両日、全国各連盟に全剣道連結のための会議の招集を行った。	【関連記事2】 戦争中軍国主義の強化に利用されたという、剣道の罪状を一応認め、しかも戦前の関係者の悪かった点に反省の意を表明し、「剣道は心を入れ替えて、新しい行き方をします。」ということを示すしなくてはならなかった。それが剣道は体育スポーツとして出直すということであった。衝に当たって、折衝された方の苦心が偲ばれる。」(全剣連50年史より抜粋)								
S26 (1961)											
S27 (1962)										全日本剣道連盟発足	・日華平和条約調印 ・日印平和条約調印 ・アインシュタイン死亡
S28 (1963)										社会体育としての剣道に対する制限が解除され、高校以上の学校で剣道を体育として実施してよいと通達される。同時に全日本学生剣道連盟が結成される。	第1回 榊原 正
S29 (1964)								第十回国民体育大会で剣道が正式種目となる 第一回全日本東西対抗剣道大会が開催される	第2回 小西 雄一郎	・ピキニ水爆被害事件(第5福竜丸)	
S30 (1965)		【関連記事3】 試合・審判規則が施行され大会が活発に行われるようになって、つぎの課題は戦前から存在していた称号・段位の扱い、また新たな制度をどのようにするかということであった。審議の結果、戦前の制度を引継ぎ、五段までの段位の上に錬士・教士・範士の称号を置くことにし、昭和二十八年三月に審査規定を施行しスタートした。そして昭和二十九年には全国で八千二百二十九名の初段合格者を出している。									
S31 (1966)		【関連記事4】 昭和三十三年に至り、大きな制度の変革となる改定を行った。すなわち十段制の導入である。 戦前の制度を復活して始められた称号・段位制度であるが、その後先行して占領中から始まって称号を廃止していた柔道の制度にならって、十段制を採用してはとの声が高まった。恐らく(剣道、柔道)が並立する。警察部内での処遇不均衡の問題が根源にあったろう。十段制といっても、剣道の場合称号をどう扱うか、大きな問題を投げ掛けるものであった。 かなり伯仲した議論を重ねた上、称号・段位並存で十段制を取り入れることになり、昭和三十二年四月から実施するよう審査規則が改められた。 この際、称号は「人格・技量・歳月ともに備わり、斯道の普及発展に貢献したもの、に与え、段位は「剣道に関する総合的実力に応じて与えられるものと記された。そして称号は書類選考とし、段位は七段まで実技審査、八段以上を書類審査によることとなつた。									
S32 (1967)								剣道に居合道、杖道、薙刀が含まれる	第4回 浅川 春男	・日ソ共同宣言調印(ソ連国交回復)	
S33 (1968)								学校剣道として中学校高校で正科体育として認められる	第5回 森田 信尊	・皇太子ご成婚	
S34 (1969)								全日本剣道選手権大会の優勝者に天皇杯が下賜される	第6回 鈴木 守治	・原子力潜水艦ノーチラス号北極潜水横断に成功	
S35 (1970)								第一回全国教職員剣道大会が開催される	第7回 中村 太郎	・ソ連 月の裏側撮影に成功	
S36 (1971)		戦後、剣道部を創設 川原連場で30名で始動 弘明寺の小学校へ防具を受け取りに行き、連3回の練習 関東甲信越大学体育大会参加。麻瀬学長決断で防具4組を輸入していたが、横浜 神奈川五大学剣道に加盟 市立大学との対抗戦を開催そして勝利	3/10剣友の集い 1回生~18回生まで31名出席	興馬宗三	関東甲信越大学体育大会 全敗			5月 全日本学校剣道連盟結成	第8回 桑原 哲明	・総理大臣・池田半人	
S37 (1972)				滝野孝人				剣道が中学校で正科選択必修として実施される	第9回 伊保 清次	・ソ連 有人宇宙飛行に成功	
S38 (1973)				福田正夫				剣道が高校で正科選択必修として実施される	第10回 戸田 忠男	・三河島駅二重衝突事故	
S39 (1974)				石野三正				第十八回オリンピック東京大会において、新設の日本武道館にて剣道、弓道、相撲がデモンストレーションとして行われた	第11回 矢野 太郎	・クネデー暗殺 ・新千田札發行	
S40 (1975)			5年ぶりに剣友が集まる。2回生~20回生、25名参加 剣友会年4回の会合に(会費500円)	濱井 栄				第一回全日本居合道大会が開催される	第12回 戸田 忠男	・東海新幹線開通 ・東京オリンピック ・日韓国交回復	
S41 (1976)	発足		剣友会発足 横山圭一先生部長就任 初代剣友会会長 曾 聖助先生が就任 初代剣友会副会長 矢田四郎先生が就任	田中正康					第13回 西山 泰弘	・シンザン5冠馬	
S42 (1977)	1周年	年報6回の大会に参加 (村市大定短期・春季神奈川六大学新人戦・関東甲信越大会・村市大定短期・秋季神奈川六大学対抗戦) また、年間の会費(5月 横浜市内の道場・夏季 長野方面での合宿・秋季 前期試験後の合宿・春 總會(豪華) 早期の準備古も実施(富丘会報昭和42年より)	審判会報に収録した剣友からの連絡を求める投稿記事(天野亮重記)	秋田健正	春季神奈川六大学新人戦(東海大・神奈川大・防大・関東学院大・横浜大・横浜国立大) 二勝三敗 四位 村市大定短期(横浜市大体育館) 戦大4-7市大	二勝の部優勝 三勝以上の部 三位	戸田知 榊方正之助	10月4日 国際親善剣道大会開催(日本武道館、【関連記事6】参照) 11月 全日本女子学生剣道選手権大会開催	第14回 千葉 仁	・ザ・ビートルズ来日	
S43 (1978)	2周年		5/25 剣友会第二回会合(弘明寺体育館) 寄付金で学生に防具を寄贈。	中村薫一	第14回神奈川東学生剣道選手権大会	個人優勝	榊方正之助	7月21日 明治100年記念剣道大会開催	第15回 畑田 国弘	・小笠原諸島返還 ・GNP世界2位 ・ミニスカート流行	
S44 (1979)	3周年			北島民雄					第16回 山崎 正平	・原子力潜水艦エンタープライズ入港	
									第17回 千葉 仁	・人類初の月面着陸	

剣道部・剣友会年表

卒年度	剣友会 年	剣道部の活動	剣友会の活動	歴代主将	大会戦績	種目・成績	選手名	出来事(剣道)	全日本選手権優勝者	出来事(社会)
S45 (1970)	4周年				神奈川県七大学戦 団体戦第五位			国際剣道連盟設立。第一回世界剣道選手権大会(団体)大阪大会(個人)が開催される。	第18回 中村 毅	万博
S46 (1971)	5周年	四年生が夏休みまで現役を継続。剣道部の部長増加。女子部員11名に	6/22 弘明寺体育館 剣道部O・B会(毎年5月の土曜日に定章、JO・B対現役の試合を実施。 剣友会名簿完成)	藤原成典	神奈川県七大学戦 第22回関東甲信越大学体育大会 第22回関東甲信越大学体育大会	男子団体準優勝 女子団体優勝			第19回 川添 哲夫	沖縄返還協定調印
S47 (1972)	6周年		6/10 OB会(弘明寺体育館)	佐伯 博	春季神奈川県七大学戦	男子団体第六位		2月15日 全剣道広報、創刊	第20回 千葉 仁	総理大臣・田中角栄 沖縄返還 日中国交回復 冬季オリンピック札幌大会
S48 (1973)	7周年	コーチとして片山5段、その後村山7段を迎える。	6/23 OB会(弘明寺体育館)	渋谷英樹	春季神奈川県七大学戦	男子団体第三位		第二回世界剣道選手権大会がアメリカ・ロスアンゼルスで開催される	第21回 山田 博徳	変動相場制導入 第一次オイルショック
S49 (1974)	8周年	神奈川県学生剣道大会が八大大学となり二部制となる。入れ替わり戦で神奈川県大学と対戦も、一部制Bリーグ止まり。		橋本昌己				3月2日 初代会長木村篤太郎辞任。前最高裁判所長石田和外退任 10月28日 財団法人全日本剣道連盟設立	第22回 横尾 英治	エネルギー危機、TV放送短縮 ベトナム戦争終結
S50 (1975)	9周年	神奈川県学生剣道大会 防衛大学との入れ替わり戦に勝利し、一部リーグ昇格		田島佳夫	神奈川県四省対抗	優秀選手	鹿間健彦	剣道の理念「剣道修練の心構え」が制定される	第23回 川添 哲夫	総理大臣：三木 沖縄返還
S51 (1976)	10周年		6/8 OB会 神奈川県大会の審判(天野先重・鎌方先重2名) OBから部長を寄贈する	雨 圭一	神奈川県学生剣道大会	Bリーグ優勝		4月17・18日 第3回世界選手権大会(英国) 7月5日 財団法人全日本学校剣道連盟設立 12月6日 幼少年剣道指導要領 発布	第24回 右田幸次郎	モントリオールオリンピック ロッキード事件発生
S52 (1977)	11周年	常盤台に経済・経営・教育学部が移転。工学部が弘明寺のため土曜日のみの合同稽古、部員62名。大学剣道関東大会で神奈川県大学で唯一 全日本学生への出場権を獲得	6/4 常盤台キャンパスに道場が新設 初めてのOB会を開催 剣友会から大旗が寄贈される	浅野 宏	第25回全日本学生剣道選手権大会出場	男子団体	浅原 雄田・菊池・横野・広兼・袴神・田中・本名澤・橋口	4月22日 派遣協議会発会式 8月11日 第1回全日本少年武道(剣道)練成大会開催	第25回 小川 功	総理大臣：福田 200海里法施行
S53 (1978)	12周年		6/24 OB会	榎野幸一	第27回関東甲信越大学体育大会 神奈川県学生剣道大会	女子団体優勝 二部優勝		2月9日 常務議員による武道議員連盟結成	第26回 石橋 正久	王将ムサン世界記録 成田空港開港
S54 (1979)	13周年	部員59名(女子17名)	旧高专剣道大会 日本総興体育館 天野先重出場 6/23 OB会	田中不二夫	第28回関東甲信越大学体育大会	女子個人準優勝	山下由紀恵	1月5・7日 第1回スゴボウ少年団剣道交流大会 5月9日 石田和外会長急逝	第27回 末野 栄二	総理大臣：大平 東京サミット
S55 (1980)	14周年	神奈川県学生剣道大会 幹事校として開催 神奈川県 喜望峯から祝賀が届く 全日本学生剣道選手権大会出場権獲得(1本戦 宇都宮2・3回大、二回戦 防衛大学3・3(本戦 藤吉) 三回戦 東京経済大学1・5回大)	6/25 OB会 横山全一剣道部長 天野先重への感謝状贈呈。新組織体制へ 山口幹事長 天野副幹事長 石野・宮部総務 渋谷・広兼会計 藤原・種子島・西学生指導 田島審判総務 橋口剣友会総務	田中和典	第26回春季神奈川県学生剣道選手権大会 第29回関東甲信越大学体育大会 第26回秋季神奈川県学生剣道大会	個人優勝 個人戦準優勝 男子団体第二位	森 信人 山本悦	12月8日 科学委員会設置決定	第28回 戸山 光利	総理大臣：鈴木 日中平和友好条約調印
S56 (1981)	15周年	公式戦には学生着用			第30回関東甲信越大学体育大会	個人優勝	按迫大成		第29回 中田 球士	国家公務員の週休2日制導入
S57 (1982)	16周年	第27回秋季神奈川県学生剣道大会で全敗 2部リーグ落ち		福島圭輔	第27回春季神奈川県学生剣道大会 第30回全日本学生剣道選手権大会出場	男子団体第二位 男子団体	出沢尚子 福嶋・桂道・岡本・寺本・中沢・小沢・柳田・寛隆・竹田・重隆	6月20日 創立30周年「三十年史」出版 7月31日 第5回世界剣道選手権大会(ブラジル) 8月8日 名誉会長木村篤太郎逝去	第30回 右田 健一	東北、上越新幹線開通
S58 (1983)	17周年		横浜国立大学剣友会 会則、を整備し、剣友会名簿も紙媒体に掲載する。	按迫大成				6月23日 庄子宗光会長に就任。河合隆晴名誉会長へ、11月4日 次年度から剣道六段の地方審判員を増加することを決定	第31回 東 一良	総理大臣：中曽根 東京デイズニードランド開演 金融機関第2土曜日休日
S59 (1984)	18周年			小沢清也				全日本剣道選手権大会の出場資格を六段以上に制限、勝負に判定を取り入れる	第32回 原田 哲夫	グリコ・森永事件発生 ロスアンゼルスオリンピック
S60 (1985)	19周年		6/28 OB会 OB会から防具置き箱を寄贈	竹田幸郎	第30回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	個人優勝	小日山 明	日本剣道形審査上の着眼点を決定 4月13,14日 第6回世界剣道選手権大会(パリ) 6月26日 全剣道会長に大島功就任 日本剣道形審査上の着眼点を決定	第33回 石塚 美文	つくば科学万博開催 日御旅東麓山笠落
S61 (1986)	20周年		6/8 OB会 剣友会創設二十周年 菅委員長の20年の功績に感謝状を贈呈。学生へビデオ一式(大学卒70万・高卒・産工卒30万円贈付) 神奈川県学生剣道連盟 三十周年にあたり大会に際して横山全一剣道部長 天野八郎先重に感謝状と記念品が贈られた。 石川監督就任	渡辺良樹	第31回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	個人三位	今井清	試合規則一部改定	第34回 岩堀 透	チェルノブイリ原発事故
S62 (1987)	20周年			小日山 明				改訂「剣道試合・審判規則」を制定。全剣道広報の月刊化(後の「剣意」)	第35回 西川 清紀	国鉄民営化
S63 (1988)	21周年	関東甲信越大学大会を横浜で開催(剣道は四大主催)、横山重也先生逝去	12/9 0時31分 菅委員会長 永藤二代目会長 山口 徹太郎先重 2代目副会長 大塚武雄先重	川村良児	第22回全日本女子学生剣道選手権大会出場 第33回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	女子個人 女子個人優勝	斎藤仁美 斎藤仁美	5月7日 六段審査より受付 審査を年齢別に2部に分けて行うシステムを採用。 5月28・29日 第7回世界剣道選手権大会(韓国)	第36回 林 朗	総理大臣：竹下 ソウルオリンピック
H元 (1989)	22周年		6/17 OB会 大学会館での学生との交流会	大山武郎	第37回全日本学生剣道選手権大会出場	男子個人	山口敬介	1称号審査規定、段位審査規定;改訂、昇段のための修業期間が延長(2段へは1年に戻す)、七段審査の時間が1分から1分半に延長、全日本選手権出場枠を64名に増やす	第37回 西川 清紀	昭和天皇崩御、平成に改元(1月7日) 消費税導入(3%) 総理大臣：宇野 総理大臣：海部 中国天安門事件

剣道部・剣友会年表

卒業年度	剣友会年度	剣道部の活動	剣友会の活動	歴代主将	大会戦績	種目・成績	選手名	出来事(剣道)	全日本選手権優勝者	出来事(社会)
H2 (1990)	23周年		6/16 OB会 横山会一前部長へ記念品として手廻り古着と袴を贈呈。	山口敬介	第38回全日本学生剣道優勝大会出場 第24回全日本女子学生剣道選手権大会出場	男子団体 女子個人	山口・木村・石野・松澤・栗本・有竹・清水・藤本・島屋 伊藤純子	6月19日 全日本剣道選手権大会の出場資格を五段以上に緩和 6月29-30日 第8回世界剣道選手権大会(カナダ)	第38回 宮崎 正裕	・ベルリンの壁崩壊、東西ドイツ統一
H3 (1991)	24周年	関東学生剣道連盟の選抜選手として有竹主将が海外選任メンバーとなる	6/16 OB会	有竹 剛	第39回全日本学生剣道選手権大会出場	男子個人	高橋健太郎	「段位審査規定」改訂(八段の2次審査員14名、7.5歳以下の撤廃、形審査実施)、神奈川県代表宮崎正裕選手が全日本剣道選手権大会で大会史上初の2連覇達成	第39回 宮崎 正裕	・雲仙警備岳噴火 ・湾岸戦争勃発 ・リビア紛争
H4 (1992)	25周年	公式行事にはプレーザー着用	6/20 OB会 山口健太郎会長 石野幹事長が連任 兼任として天野八郎会長 秋田幹事長が就任	藤木賢二				5月3日 第四十回京都大会を改め、第八十八回全日本剣道済武大会とした 5月17日 六段審査会名古屋で開催 12月23日 「全剣道四十年史(剣道界と全剣道のあゆみ・この10年)」を出版	第40回 石田 利也	・総理大臣・宮沢 ・パルセロオリンピック ・新幹線のぞみ、山形新幹線開通
H5 (1993)	26周年		6/19 OB会	横尾倫之				6月7日 大島功全剣道会長逝去 6月22日 兼山二郎剣道会長に就任 11月1日 七段以上の高段者名簿初めて発行 11月3日 第41回全日本選手権大会、決勝は宮崎(神奈川)兄弟対決	第41回 宮崎 正裕	・総理大臣・細川 ・リーグ開幕 ・皇太子ご成婚
H6 (1994)	27周年	関東学生剣道連盟の選抜選手として高橋主将が海外選任メンバーとなる		高橋健太郎	第39回秋季神奈川県学生剣道選手権大会 第43回関東甲信越大学生剣道大会	団体優勝 個人優勝 個人優勝 女子団体優勝	高橋・秋山・山田・田村・谷田・井上・太田・松田・加藤 高橋・秋山・山田・高砂・井上・菊池・太田・松田・加藤 高橋健太郎 横山・渡部・青藤・荒川・菅澤	剣道社会体育指導員認定制度が文部省に認可される 4月3-10日 第9回世界選手権大会(パリ) 11月20日 八段審査東京でも実施	第42回 西川 清紀	・総理大臣・羽田 ・総理大臣・村山 ・アジア発の女性宇宙飛行士誕生
H7 (1995)	28周年	剣道部創設以来の全日本学生2回戦進出 関東学生剣道連盟の選抜選手として井上副主将が海外選任メンバーとなる	有竹監督就任 6/9 OB会 31名の卒業生が稽古に参加	高砂 大	第40回秋季神奈川県学生剣道選手権大会 第43回全日本学生剣道優勝大会出場	男子団体	高砂・井上・菊池・太田・牧野・川崎・角・横山・安藤	剣道八段資格の年齢制限の48歳以上を45歳以上に改訂、全日本女子剣道選手権大会の出場資格を1.7歳以上(年度内年齢)、全日本剣道選手権大会の出場資格を2.0歳以上にし、段位制限撤廃	第43回 石田 利也	・阪神淡路大震災 ・地下鉄サリン事件
H8 (1996)	29周年	神奈川県学生剣道連盟幹事校	6/22 OB会 29名の卒業生が稽古に参加	大田 剛			清池一紀	全日本剣道選手権大会を天皇皇后両陛下がご観戦、優勝者(宮崎正裕)に天皇杯が授けられる。(4度目の優勝)	第44回 宮崎 正裕	・総理大臣・橋本龍太郎 ・アトランタオリンピック ・薬害エイズ訴訟
H9 (1997)	30周年	E-MAILでの日程連絡をはじめ 関東学生剣道連盟の選抜選手として兼山副主将が海外選任メンバーとなる	富本海先輩がNHKドキュメント日本「二〇秒の攻防」に出演！ 6/28 OB会 34名の卒業生が稽古に参加	角 憲太郎	第42回春季神奈川県学生剣道選手権大会 第42回春季神奈川県学生剣道選手権大会	個人準優勝 個人三位	角 憲太郎 横山貴史	第4回世界剣道選手権大会が京都で開催される。 第三十六回全日本女子剣道選手権大会の優勝者(大塚真由美)に初の皇后杯が授けられた。 3月27-30日	第45回 宮崎 文裕	・消費税5% ・香港中国へ変換
H10 (1998)	31周年	関東学生剣道連盟の選抜選手として安部主将が海外選任メンバーとなる	6/27 OB会 剣友会創設三十周年 岸根公園県立武道館で稽古会を開催 総勢54名、海外選任の安部主将に贈状を贈呈。富本先輩・山口先輩に感謝状を贈呈。 特別剣友賞志川ロベルト先輩が贈られるにあたりOB会から稽古着・学生から袴を贈呈。	安部博文	第43回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	個人優勝	安部博文	11月20日 全剣道ホームページ発足 「竹刀及び剣道具規格、成案を得る	第46回 宮崎 正裕	・総理大臣・小渕恵進 ・長野冬季オリンピック ・山一證券破綻
H11 (1999)	32周年	関東甲信越県立大学剣道大会幹事校	木村監督就任 富本海先輩勲章号受授 6/26 OB会	菅納祐介				剣道称号・段位制度改定、剣道称号・段位審査規則および細則・実施要領決定、形審査不合格者の再審査制)、国士館大学にて剣道部員の傷害致死事件発生、剣道部解散	第47回 宮崎 正裕	・金融再編進行
H12 (2000)	33周年	剣道部ホームページ立ち上げ 剣道場修繕	6/24 OB会 OB会から川津主将に袴を贈呈	川津大輔	第48回全日本学生剣道選手権大会出場 第45回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	男子個人 個人三位	川津大輔 中原貴之		第48回 栄花 直輝	・総理大臣・森 ・シドニーオリンピック ・有珠山噴火
H13 (2001)	34周年	春季合宿開始	6/23 OB会	大塚 孝	第46回春季神奈川県学生剣道選手権大会	女子団体三位	岡田・日向・外島	全日本剣道済武大会の出場資格を6段以上称号受有者とする、七段審査を名古屋で開催	第49回 岩佐 英範	・総理大臣・小泉純一郎 ・米朝同時多発テロ
H14 (2002)	35周年		6/8 OB会 三十五周年を記念して弘明寺の横浜国立大学付属中学校体育館で開催	佐藤孝定				規則改定「八段一次の審査員を6名とし4名の同意で合格、六七段審査を別立ての三審査員で実施	第50回 安藤 戒平	・アフガン戦争 ・サッカーワールドカップ日韓共同開催
H15 (2003)	36周年	神奈川県学生剣道連盟幹事校	6/28 OB会 36周年記念事業として35周年記念館を建築スタート。奥島会長 藤生副会長が就任 秋田幹事長が連任され、藤原幹事長が就任	中原貴之				四段-七段、護士、教士の審査員を6名とし4名の同意で合格とし、剣道称号・段位審査規則改定、「日本剣道形解説書」完成、解釈の統一実施	第51回 近本 巧	・イラク戦争勃発 ・SARS流行
H16 (2004)	37周年		6/26 OB会 約1年越しの修繕作業を終え無事に記念館が開館された。年賀状を頂いている先輩方全体に配布を実施。関係各所にも寄贈品として贈呈。	渡砂宏紀				初段取得者数が、2年間に年間5万人台を回復。 ・267団体に少年剣道教育奨励賞を贈呈 ・全日本剣道済武大会が明治28年以来第100回を迎える ・全剣道ホームページのリニューアル完成	第52回 鈴木 剛	・新潟中越地震 ・スマトラ沖大地震・大津波 ・アネオニンピック
H17 (2005)	38周年		香港国際招待試合にて剣友会チームが3位入賞(神山(H10) 中川(H11) 山田(H11) 大塚(H13)) 6/26 OB会 40周年の記念館会に向けた準備をスタート	藤山和夫	第50回秋季神奈川県学生剣道選手権大会	個人優勝	米倉 文雄	・剣道八段審査に過去最多の1300人を超す、合格者12名、7段審査は2581名と前年度越す。 ・5月団体で岡山県四種目完全優勝。 ・8月31日愛知万博で剣道フェスティバルを開催。 ・東西対抗剣道大会を三十八年ぶりに鹿児島で開催。心技とも充実した試合に終結した。	第53回 原田 悟	・鳥インフルエンザ発生による鳥多量処分 ・建築耐震強度偽装事件発覚 ・ロシアカーチン島事件 ・ネット詐欺巧妙化
H18 (2006)	39周年		6/24 OB会 大塚監督就任 秋田副会長が就任 40周年記念総会親立を開始し、100人以上の規模で総会を開催するべく会場準備をスタート、大学関係者への招待をはじめ稽古会での剣道形演習を企画。	藤原 康一				・平成18年3月31日時点での剣道有段者登録数は、1,429,718人(内、女子は401,121人) ・12月に第19回世界剣道選手権大会が台湾で開催、44カ国参加、女子個人、男子個人は、日本が連戦優勝、男子団体戦、日本は、準決勝で米国に敗れ3位、韓国初優勝。	第54回 内村 良一	・小泉から安倍首相へ、連任議員展 ・イバパワー-荒川静香トリノ五輪で金 ・WBC王ジャパンが世界の頂点に ・姉歯 耐震強度偽装事件

